

都小音研

令和7年3月6日第67巻449号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都板橋区西台3-38-23
板橋区立志村第五小学校

「ゾーン大会」がつなく 学びのバトン

東京都小学校音楽教育研究会
副会長 金子 陽子
(板橋区立新河岸小学校長)

令和7年1月24日、「令和6年度 東京都小学校音楽教育研究会 第67回研究大会 山の手Aゾーン大会」を5年ぶりに対面で授業を公開し、午後には「としま区民センター」に参集し研究発表をすることができました。ご尽力いただいた文京区・豊島区・北区・板橋区の先生方をはじめ、関係の皆様には心より感謝申し上げます。

今回、大会実行委員長を仰せつかり、2年間で各地区でのチームづくりと研究内容が深まる様子を拝見し、先生方が学び合う姿に立ち会えたことは大きな喜びでした。

研究を始めた令和4年度は卒業式に対面で歌うことが制限されたり、教員の研究会の参加人数も制限されたりする状況の中、ゾーン大会で何を優先して研究発表するか4区の代表者が考えたのは、実際の音楽の授業で「子供の姿」を見せたいという強い願いでした。何度も協議を重ね、午前中に各地区で授業を公開し、午後にとしま区民センターに参集し研究発表とご講演をいただく形態といたしました。ゾーン大会の意義を問い直すよい機会にもなりました。

声を出すことを長期間、制限されていた子供はコロナ前のようにすぐに歌うことはできませんでした。コロナ禍の子供の実態を共有しながら、特定の人だけが授業をするのではなく、全員が「自分事」としてゾーン大会に関わり授業研究を進めることを確認しました。研究協議会ではグループ協議を取り入れ、担当区の教員が本時に至る経緯を説明し、参加者から感想や意見をいただき、ファシリテーターとして協議を活性化させました。

今回の大会主題「自ら求め 共に高まり 学びをつなげる児童の育成」はそのまま、私たち自身にも当てはまる研究のテーマでもありました。

教師主導ではなく、子供が自ら学びたくなる授業にするために、どんな題材構成にするのか、地域の伝統音楽の専門家と協働する授業、楽曲の生まれた背景を紐解き地域教材を生かした授業、自分で演奏する楽器を選択できるようにするなど、様々な提案をしました。実践を通して子供が音楽を形づくっている要素を聴き取ったり感じ取ったりする活動を大切にすることが重要だと気がきました。一人一台端末は、授業のねらいを達成するために必要な場面で活用すると効果的であることなど、多くの学びがありました。これも4区の素晴らしい助言者の先生からの温かいご指導あってのことでした。志民視学官からは、次期改訂に向けての学習指導要領の改善の方向性をお示しいただき、今回の研究発表を大きく評価いただいたことも自信につながりました。

私自身、12年前の山の手Aゾーン大会は、東京都教職員研修センター指導主事の立場で文京区内小学校に学びに行きました。今回、干支が一回りし、その頃とは違う立場で本大会に携わり、平成17年度教育研究員とともに学んだ仲間が、都小音研会長、顧問校長、研究や運営をまとめる立場になり再会することができました。また、当時指導主事として担当させていただいた教育研究員の部員が、担当区の指導主事となりご挨拶される様子や、顧問校長として研究をリードする姿に立ち会うことができました。研究を通して学び合う仲間は、かけがえのない宝です。音楽教員は校内に一人だからこそ、音楽科教員同士が互いに学び合うゾーン大会の意義を実感したところです。

これからますます予測困難な時代を生き抜いていく子供たちが、心豊かに自分の人生を歩んでいけるよう、これからも都小音研で育んだ絆を大切に、学びのバトンを次につないで参りましょう。



第67回 都小音研 研究大会「山の手Aゾーン大会」

■ 大会研究主題「自ら求め 共に高まり 学びをつなげる児童の育成
～音楽的な見方・考え方を働かせた音楽活動を通して～」

令和7年
1月24日

研究授業

鑑賞

「旋律と歌詞の関わりを感じ取りながら、 季節の歌を味わおう」

文京区立本郷小学校（第5学年）授業者：野田 茜
『ちいさい秋みつけた』の鑑賞を通して旋律と歌詞の関わりや表現のよさに気づき、それらを『冬げしき』の歌い方の工夫につなげるという題材構成でした。本時では『ちいさい秋みつけた』の主に中間部分の歌詞と旋律の関わりについて、一人一台端末を活用し、児童一人一人がじっくりと聴き深める姿が見られました。助言者の松本絵美子先生からは、季節の歌を取り上げることの意義や、多様な聴き方によって児童の思考を深めること、視点を定めた振り返りの重要性などについてご指導いただきました。



器楽

「いろいろな音の重なりを感じ取ろう」

豊島区立西巣鴨小学校（第4学年）授業者：上林 千紗
『茶色の小びん』を教材として、旋律の特徴を生かしてパートを重ねて演奏する学習でした。児童が自分の課題を書き込んだ「ビンゴカード」を活用し、合奏グループごとに友達と協力しながら合奏をしていました。リズムを合わせたり休符を感じ取ったりして合奏する姿が見られました。助言者の田川伸一郎先生からは、児童の思いや意図を表現に生かす方法など、演習も交えながらご指導いただきました。



歌唱

「思いをこめて表現しよう」

北区立袋小学校（第5学年）授業者：小林 法子
『大切なもの』を教材とし、曲の特徴にふさわしい表現について、友達と歌声を聴き合ったり伝え合ったりしながら、思いや意図に合った歌い方を工夫する学習でした。グループで考えた工夫を全体で共有し、歌って試しながら歌声につなげていました。児童の思いがたくさんつまったやわらかい歌声が、体育館に響いていました。助言者の眞鍋な、こ先生からは、思いをこめて歌うということなのか等、実技を交えながらご指導いただきました。



音楽づくり

「日本の音楽でつながろう」

板橋区立緑小学校（第4学年）指導者：長嶋 令奈
『さくらさくら』の音階を使い、音の動きを考えてつくった旋律をグループでつなげ、まとまりを意識した音楽にする活動内容でした。どのような順番でつなげるか、反復の位置をどこにするか、音で試しながら考え、その根拠を大切にしながら授業が展開されました。板橋区の先生方をリーダーとしたグループ協議も行われ、活発な意見交換がなされました。助言者の石上則子先生からは、児童の思考の過程が大切であること、児童が納得感を得られるような教師の価値付けをしていくことの重要性をご指導いただきました。



山の手Aゾーン大会を終えて

山の手Aゾーン大会研究部長
板橋区立板橋第六小学校 星野 朋昭

「自ら求め 共に高まり 学びをつなげる児童の育成 ～音楽的な見方・考え方を働かせた音楽活動を通して～」を主題として掲げ、大会当日は、午前中に各区にて4本の研究授業を、午後にはとしま区民センターに集い研究発表を行うことができました。

視点1「課題意識をもち、解決に向かっていく主体的な学びの実現」では、児童が課題を見出し解決方法を選択出来るような取組について考えました。視点2「考えや表現を広げ深めていく対話的な活動の充実」では、友達同士の協働学習の他、地域に関わる演奏家・作詞家等とつながりを持ち、音楽の背景や価値に興味関心を高められるように授業を組み立てました。視点3「学びを自覚し、積み重ねつなげていく題材構成の工夫」では、児童に身に付けさせたい指導事項を焦点化したり、領域・分野を組み合わせたことで、学習のつながりについて考えました。

開催にあたり多くのご助言を賜りました助言者の先生方、また各区の音楽部担当の校長先生や都小音研各部のみなさまに感謝申し上げます。また共に学んだ4区の先生方に厚くお礼申し上げます。

山の手Aゾーン大会報告

都小音研 研究部長
立川市立第三小学校 半野田 恵

令和7年1月24日、山の手Aゾーン大会が開催されました。午前中に、各地区の学校を会場に直面での研究授業と研究協議会、午後は、としま区民センターにおいて研究発表等を行いました。

現在、教育に求められている方向性と各地区の課題から大会主題を『自ら求め 共に高まり 学びをつなげる児童の育成～音楽的な見方・考え方を働かせた音楽活動を通して～』と設定し、研究を進めてきました。着実な実践研究を積み重ねてきたことを、文京、豊島、北、板橋4会場の研究授業や研究発表でご覧いただけたと思います。また、授業前に題材構成や指導計画について説明したことで、本時の授業だけではなく、題材全体の学習過程を見通して参観することができ、新たな提案となりました。

山の手Aゾーン大会に携わった皆様に心より敬意を表します。本大会の成果を東京都全体で共有し、私たちも自ら求め、共に高まり、学びをつなげていけるよう、授業研究・実践に取り組んでいきたいと思ひます。

第68回

都小音研 研究大会 『山の手Bゾーン大会』

令和8年1月23日(金)

場所：〔午前〕各区立小学校

〔午後〕千代田区立お茶の水小学校

研究主題「生き生きと音楽に関わり、学びを広げ 深め つなげる児童の育成」

都小音研では研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」を設定し、児童が主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わう姿を求め、研究に取り組んできました。

山の手Bゾーンでは、音楽科において児童が生き生きと学び、その中で自らの生活と音楽がつながり深まる学習の実現に向けて、5地区で研究を進めております。

午前は5会場にて公開授業（歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞）、研究協議を行い、午後は全体会場にてワークショップ、研究発表、講評・講演を行います。

★お詫びと訂正

第67巻448号12月12日発行の会報「都小音研」の掲載内容におきまして誤りがありましたので、右記の通り訂正させていただきます。ご関係の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

NHK全国学校音楽コンクール結果

〈全国コンクール〉

誤：【銅賞】港区立白金小学校



正：【銀賞】港区立白金小学校

第1回 音楽作品発表会 (第61回 児童作曲コンクール) 選定結果

毎年行ってきました児童作曲コンクールは、今年度から「第1回 音楽作品発表会」として新たにスタートしました。図形楽譜による応募も可能とするなど、より多くの作品が発表できるよう応募規定を変更し、音楽をつくる楽しさを味わってもらえるようにしました。2月8日(土)にはカスケードホールにて、入選作品演奏発表会が行われました。入選作品は以下の通りです。

課題詩の部1 「さくらキャッチ」

くま うさぎ 詩

- 橋爪 奏磨 (千代田・千代田小2年)
小川 陽 (中央・久松小4年)
雪吉 晴敬 (渋谷・上原小6年)
藤田 珂偉 (中野・桃園第二小4年)
岩田 昂亮・岩田 咲知
(杉並・高井戸小1年・5年)
沼田 理玖 (江戸川・船堀小6年)
石原 怜 (多摩・多摩第一小5年)

自由作品の部ア (旋律のみの作品)

- ムガール理人 (港・青南小4年)
原田 さら (港・青南小5)
井手 大我 (江東・平久小4年)
梅崎 玲奈・大谷章太郎・大宮 朝陽・佐藤 吏・
辻 明音・成富 花奈・仁茂田隆太
(江東・平久小6年)
沼田 理玖 (江戸川・船堀小6年)
石原 怜 (多摩・多摩第一小5年)

課題詩の部2 「しあわせのじかん」

山内 弘子 詩

- 前田 悠仁 (世田谷・尾山台小3年)
志村 琴音 (世田谷・烏山北小6年)
藤田 珂偉 (中野・桃園第二小4年)
岩田 咲知 (杉並・高井戸小5年)
沼田 理玖 (江戸川・船堀小6年)

自由作品の部イ (伴奏等がついたもの)

- 早川 瑠威 (新宿・富久小6年)
宮野由実花 (文京・関口台町小4年)
坂本 和志 (世田谷・用賀小4年)
山下 真由 (練馬・下石神井小6年)
沼田 理玖 (江戸川・船堀小6年)
石原 怜 (多摩・多摩第一小5年)

学校賞 (3年連続して作品応募のあった学校)

- 千代田・千代田小 ○中央・日本橋小 ○文京・誠之小 ○文京・駕籠町小
○目黒・大岡山小 ○世田谷・用賀小 ○渋谷・千駄谷小 ○練馬・下石神井小
○練馬・開進第四小 ○小金井・小金井第三小

♪入選作品は、後日都小音研ホームページに掲載されます。

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈12月理事会〉12月12日 於：新宿区立江戸川小学校

議長：平松 彩 (豊島・目白小)

○会長あいさつ

○議 事

- 1・2・3月の行事予定について
- 令和6年度 山の手Aゾーン大会について
- 各部より
- 文化的行事についての情報交換・情報共有

編集後記

実際の授業から学べるありがたさを改めて感じた研究大会でした。学ぶことの楽しさを一人でも多くの児童に実感してもらえるよう、研究を続けていきたいものです。
(K)

会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 山根 まどか

編集：広報部

印刷：タイヨ一美術印刷株式会社